

1. 授業の概要(ねらい)

この授業では、音楽、映像、音声、文字などさまざまな情報のやり取りが、社会をいかに構成し、社会にいかに影響を与え、社会からいかに影響を受けているのか、社会学的視点から多面的に理解することを目的とします。

そのために、講義スケジュールは大きく2つのパートから構成されます。(1)情報をメディアの視点から捉え、テレビ、音楽メディア、ラジオ、電話、出版といった私たちに身近なメディアの近年の歴史の変動を探り上げ、私たちの常識的なメディア観を再検討します。(2)情報社会の社会学的意味を幅広く捉えるために、時間性、空間性、うわさ、ネットワーク、社会関係資本、選択と監視、失業といった多様な理論的視点を掘り下げます。

この授業では、受講生の主体的思考を促すため、授業中にリアクションペーパーを記入してもらい、それを授業内で発表してもらったり、それを引き受けて即席のディスカッションを行うことがあります。

2. 授業の到達目標

- (1)各メディアの歴史の変動を社会学的な観点から説明できる。
- (2)情報社会の理論的ポイントについて社会学的用語を用いて説明できる。
- (3)メディアや情報社会の問題や展望について、自分なりに分析して表現できる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・リアクションペーパー: 20%
- ・試験: 40%
- ・レポート: 40%

4. 教科書・参考文献

参考文献

吉見俊哉 『メディア文化論』(2012年) 有斐閣

松田美佐 『うわさとは何か』(2014年) 中央公論新社

5. 準備学修の内容

- ・当該メディアについての自分の使い方とその理由をまとめること。
- ・自分が過去に経験したうわさの伝播についてまとめること。

6. その他履修上の注意事項

- ・授業中に適宜、リアクションペーパーに記入してもらい、受講生の意見や考えを聞くことがあるので、積極的に発言するようにしてください。
- ・授業計画は、受講生の関心や社会情勢によって適宜変更します。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--------------|
| 【第1回】 | オリエンテーション |
| 【第2回】 | テレビの現代史 |
| 【第3回】 | 電話の現代史 |
| 【第4回】 | 携帯電話の現代史 |
| 【第5回】 | ラジオの現代史 |
| 【第6回】 | 音楽メディアの現代史 |
| 【第7回】 | 出版と読書の現代史 |
| 【第8回】 | 中間まとめ |
| 【第9回】 | 情報社会と時間性・空間性 |
| 【第10回】 | うわさの理論 |
| 【第11回】 | 情報交換のネットワーク |
| 【第12回】 | 社会関係資本 |
| 【第13回】 | ネット社会と選択の自由 |
| 【第14回】 | 情報化と失業 |
| 【第15回】 | まとめ |